

氏名	たなか いちろう 田中 伊知郎	職名	教授（理学博士）
専門分野	自然人類学・行動人類学		
所属学会	日本人類学会・日本霊長類学会・日本動物行動学会		
担当科目	生物学概論・生物と進化・心理学・自然科学概論・セータ分析の基礎・統計的分析・コンピュータリテラシー・森林学・キャリア基礎Ⅰ・キャリア基礎Ⅱ・キャリア基礎Ⅲ・情報倫理		
I 教育活動			
	教育実践上の主な業績	概	要
1. 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	<p>単なる一方向のマスの伝達にならないように、双方向コミュニケーションを行い学生の理解の向上に努めた。コロナ感染対策に対して、オンデマンド授業に移行した。学生が理解しやすいように、スライドを提示して、読み終わったところに、ナレーションを入れ、その後、一時停止してノートに書くように必ず指示して、目・耳・手から同じ情報が入り、頭・脳に重みが付いて、記憶しやすくなるように工夫した。また、内容を理解したかどうか調べる課題を必ず出し、メールで個別対応して、理解の浅い学生には理解を深める指示を必ず行い、再提出させるフィードバックによって、学習の達成を図った。後述の因子分析から検出された大教室の対面授業で問題となった「授業にただいるだけの学生(出席が理解度や授業態度と相関しないことから判明)が存在する」ことも、オンデマンドでは、課題の提出とそのフィードバックで、学生が必ず考えて臨むようになり、削減することができた。</p> <p>コンピュータリテラシーなどの実習系の授業では、教室内を回って、学生を個別に指導して、授業への態度を向上させた。その結果、勝手におしゃべりする学生がいなくなり、他の学生の利益にもなり、教室全体の学生の理解を促進した。また巡回個別指導ではつまづいている学生に積極的に話しかけて、質問への敷居を低くし、双方向コミュニケーションを充実し、個々の学生の細かい質問にも答えることができ、理解の促進が図れた。特にコンピュータの実習では、学生が質問しやすい環境を整えるとともに、質問しない学生には積極的に教員から話しかけ、学習内容のチェックと指導を行い、理解の促進を図った。その結果、学生の学習進度が早くなり、予定していた内容を超えた高度なところに進むことができた。</p> <p>授業改善アンケートは、必ず因子分析を行い、単なる数値でなくて、相関から、学生の心に潜む因子をあぶりだし、そのことを授業の改善にフィードバックした。オンデマンドの方が、一時停止を使い「ノートテイクが自分のペースでできる」ので、学生の理解と満足度が上がることがわかった。</p>		
2. 作成した教科書、教材、参考書	なし		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	なし		
4. その他教育活動上特記すべき事項	なし		
II 研究活動			
なし			
III 社会における主な活動			
学会活動			
2019年4月～2020年7月	日本人類学会評議員（日本人類学会）		